金澤を知る12章

創刊20周年 特別企画

第6章 町家

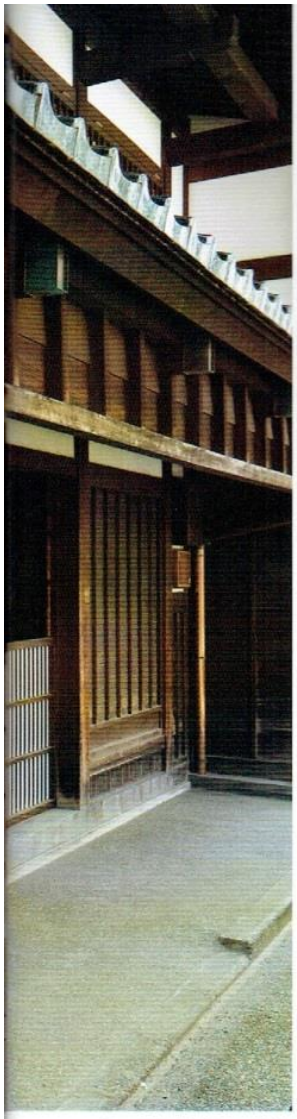
古い趣がある町家を訪れると、なぜか心がほっと和みます。
そこに長い年月実際に人が工夫を凝らして生活した痕跡や、
美しい意匠が残っているからではないでしょうか。
金沢には様々なタイプの歴史的建造物が残っていますが、
今回は商家の家や店舗として使われた
「町家」の魅力と活用例をご紹介します。

岡村喜知郎、苗加和毅彦＝撮影　金澤編集部＝取材・文

金澤を知る12章
創刊20周年特別企画

【金沢の町家の特徴・継承の取り組み】

金沢の風土に寄り添う、私たちが繋いでいくべき町家という文化遺産。

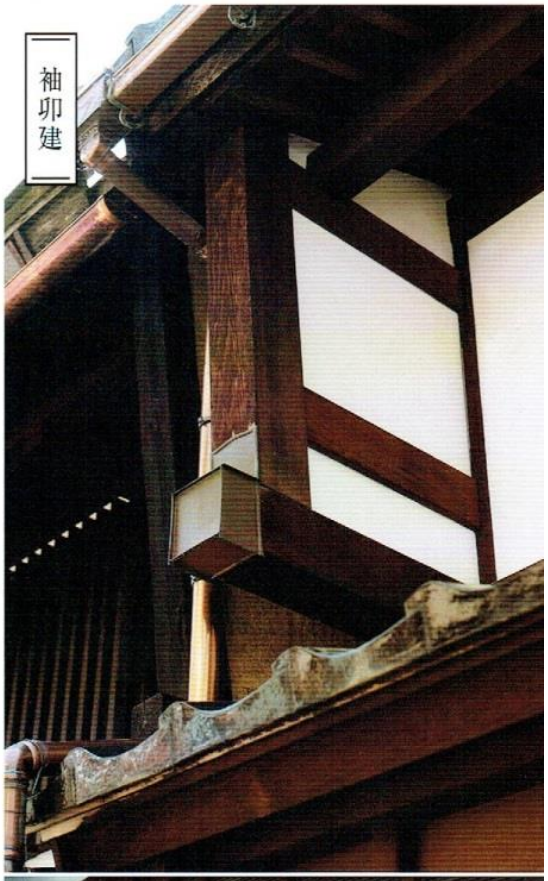


サガリは雨風が吹き込むのを防ぐために横に長く取り付けられた板。機能性に加え、曲線の優美な印象も与える。蔀戸は一階のシャッターのような役割があり、2枚の木の板を上にすり上げれば、全て開くことができる。夏の日中は下段に障子のみをはめる。（畳 立野）

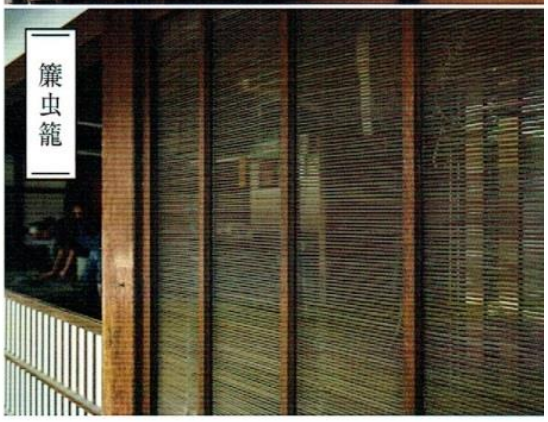
話を伺った方
川上光彦さん

金沢市出身。NPO法人金澤町家研究会理事長、金沢大学名誉教授。「金澤町家」という言葉と概念を提唱し、金沢のまちづくりに様々に携わっている。同NPO法人は金沢市から金澤町家流通コーディネート事業などを委託されている。

上／2階の両端に付いており、元々は防火壁の役割を担ったが、時代が進むにつれて白漆喰を塗るなど装飾的な意味合いも持つようになった。下／細い竹を使ったこの地方特有の格子。（畳 立野）



袖卯建

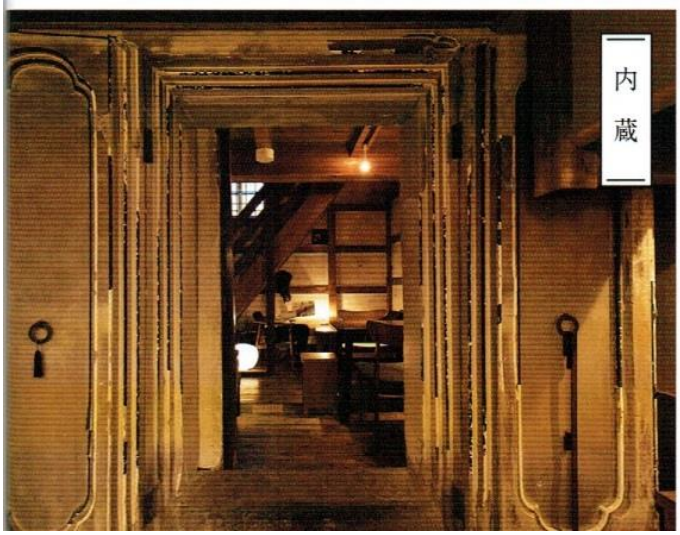


簾虫籠

戦災を免れた金沢には全国的に見ても町家が多く残っている。東山、尾張町、金石、大野などの通りに沿って趣ある表構えの家や店が並ぶ景観は、街の魅力の一つだ。とはいえ、その特徴を知らなければ、価値に気付くことは難しい。NPO法人金澤町家研究会の川上光彦理事長に、町家の見どころを伺った。

「金沢の町家には冬の気候風土に合わせて発展した特徴があります。例えば、一階の庇の下には『サガリ』という雨や雪が吹き込んで障子などが傷むのを防ぐための横板が付きます。蔵は屋外に出ずに出入りできるよう、住居と繋がっていることが多い。また、庭は『セド』と呼ばれ、雪下ろしの場所でもあるため、それほど作り込まれることはなかったようです。こ

雨や雪に濡れずに入れるよう、住居に接して設けられた蔵。（葉舗 Kazu Nakashima）



内蔵

サガリ

蔀戸

縁側の軒

セド

土板瓦

左／明治以降、2階が高くなった分、一階との間に雨が染み込まないよう装飾性のある瓦を置いた。中／明かりとりや通風、雪下ろしの場所としての庭。（菊乃や）右／金沢では丸い垂木と四角い垂木を交互に置く遊び心あるデザインがよく見られる。（壽屋）

れらは京都の町家には見られない特徴です」。気候風土に沿った特徴のほか、当地ならではの美意識が宿る意匠も多い。例えば、細く繊細な格子である木虫籠（キムスカ）（P5）や細い割り竹による簾虫籠（スムシカゴ）、屋根付近の装飾的な意味合いも兼ねた土板瓦（ドイタガワラ）、袖卯建（ダク）など。また、京都は早くから格子が発展したのに対し、金沢ではすり上げ式の蔀戸（シトミド）が残ったことも特徴的だ。

壊すことは簡単でも、取り戻すことができないのが町家。昨年度の「金澤町家」（武家系住宅など含め昭和25年以前に建築された歴史的建造物）の数は6125棟。5年前の調査より500棟以上減っており、年間100棟以上のペースで取り壊されている。「金澤町家の空き家は1000棟程度あると推定されますが、金沢では貸家の文化が普及してこなかったため、空き家になっても人に貸すという意識があまりない。需要の多さに対して空き家が市場に出てこないのが一番の課題です」と川上理事長は続ける。

金沢市は「金澤町家流通コーディネート事業」やサイト「金澤町家情報バンク」を通じて空き家情報を発信し、改修の補助も行っている。いずれも町家の保存・活用に取り組む建築士や不動産業者、NPO法人などの協力によるものだ。空き家を持っている人がいれば、気軽に相談してみてはいかがだろうか。他の誰かが新たに住まい、あるいは業を営み、建物を引き継いでいくことが街を活気づける。街の文化遺産を後世に繋げていく意識を私たち一人ひとりが高めていきたい。

【多彩な町家の活用例】

より自由な魅力が溢れる町家を楽しむ。

金澤を知る12章
創刊20周年 特別企画

ここからは、町家を上手く活用した実際の例と、その魅力について探っていく。

東山の静かな通りに佇む、築85年の町家カフェ『豆月』は、一級建築士の北出健展さんと美由紀さん夫妻の住まいでもある。入り口からは奥の坪庭まで見渡せる間取りになっており、奥行きや広がりを感じられるつくりに。「小さな町家でも広さと狭さを上手く使うことで豊かに暮らせますよ」と、健展さんは話す。

大樋町にある築百年以上の『高木屋金物店』では、大きな商家のつくりを利用してコミュニティ空間を設ける。1階は、多目的で使えるギャラリーやサロン空間、2階は茶道や着付けの教場にしたことで、幅広い世代が集まるように。「色んな方との出会いによって、心にゆとりができた」と店主・高木猛さん。店舗の改修によって意識も変わり、大衆的な商品から職人技が光る商品にセレクトを替えている。

最後は、主計町にある築120年の茶屋を改修した宿『菊乃や』。改修前はかなり荒れていたものの、拭き漆の天井や美

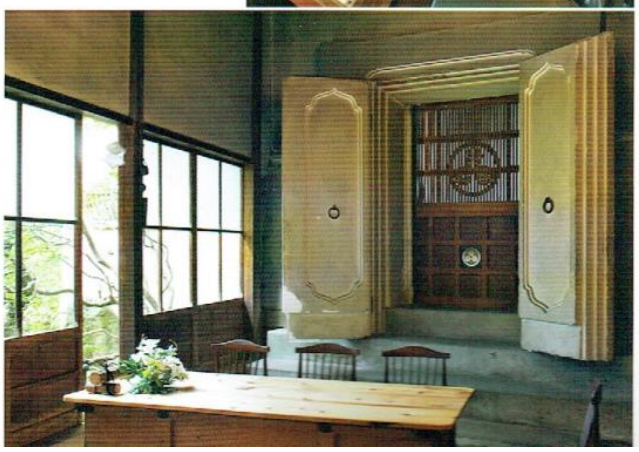
サロンを有する住居兼店舗

髙木屋金物店

嘉永元年創業の金物店。2012年に自宅兼店舗が「金澤町家」に認定されたことから、店主夫妻は古いものに興味を持ち始める。一級建築士事務所『あとりいえ。』代表・やまだのりこさんに改修を依頼し、16年にリニューアルを果たす。1階の店舗では、職人のこだわりが光る品を販売し、その奥に「蔵前さろん」や「縁側ぎゃらり」など集いの場を設けた。

金沢市大樋町4-7　076-252-1480

左上／5代目店主・高木猛さん、万寿美さん夫妻。右／通り土間には、囲炉裏が。下／蔵へと続く空間は「蔵前さろん」と名付け、庭を眺めながらイベントやワークショップなどを不定期で行う。過去には、おでんパーティや「cowry coffee」とのコラボレーションで珈琲のワークショップを開催。今後のイベント情報は、HPで発信。

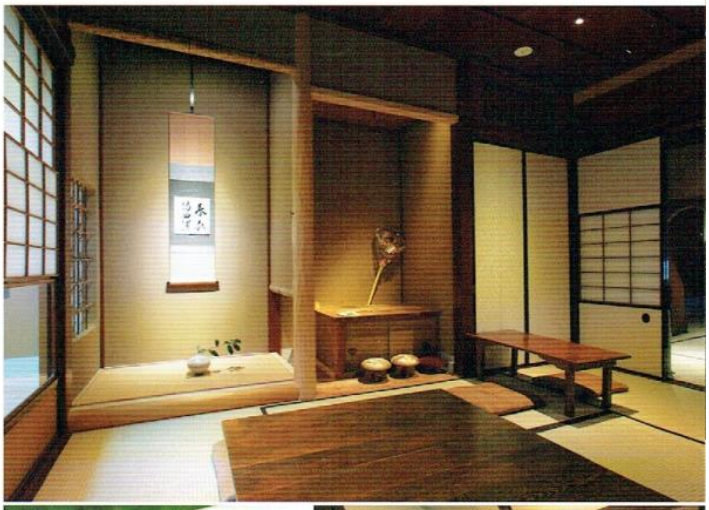


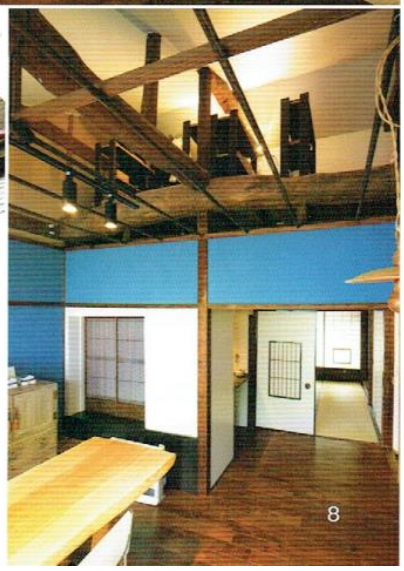
住居と事務所を兼ねた町家カフェ

豆 月 mamezuki

昭和8年に建てられた町家を改修し、北出夫妻の住居とカフェ、事務所を兼ねた一軒に。1階は、夫人の美由紀さんが営むカフェ『豆月』、2階は一級建築士の健展さんが代表を務める建築事務所『ジェル・アーキテクツ』のオフィスとしても利用する。同店の改修までの軌跡は、ブログ『金澤町家改修物語』で紹介している。

金沢市東山2-3-21　076-256-0465



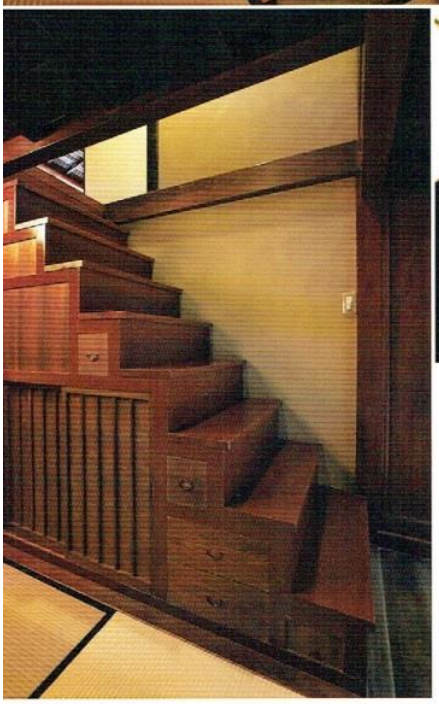


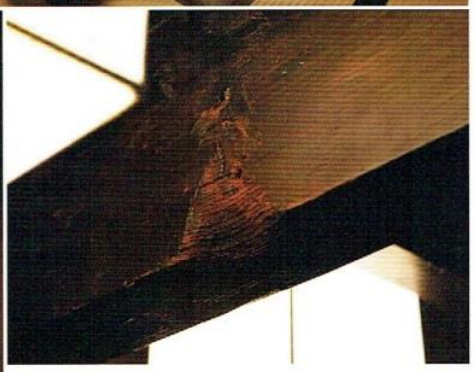
上／1階のカフェ『豆月』の空間。ここから眺める坪庭は、小さいながらも採光や風通しに優れ、役立っているという。左下／美由紀さんが丁寧につくる、豆をつかった甘味。右下／もともと残っていた群青色を参考にした鑿色。2階は、健展さんのオフィスとして利用するほか、浴室をはじめとする住機能の多くをこの階に集めている。

しい紅殻色の壁など本来の姿を取り戻すように修復された。職人も驚く建材や技術が残る貴重な一軒で、歴史に思いを馳せながら滞在できる。「町家は手入れが大変ですが、この立地と空間で過ごす体験には代えられませんね」と代表の正木さん。

優れた技術や暮らしの名残を伝える町家。年月を経てもなお残る建物は、その時々の生活様式に合わせて変化を重ねている。同様に、今の暮らしに合わせて手を掛けられた町家も、更なる魅力を纏って次の時代に受け継がれていくのだろう。

左／『菊乃や』1階の床の間。床板と床框（とこがまち）は、もとからあったものだというが、これらは高級な木材を模したものだそう。同宿が建てられた頃、贅を尽くした建物のどこかにあえて偽物の建材を使うことが粋であったという話が残っている。右／主計町の一角にある同宿。本来は、隣接する町家『松乃や』と合わせて、一つの大きな茶屋であった。





上／お座敷あそびを楽しんだとされる紅殻色の2階の和室。右手奥には、風や灯りを室内に取り込む役割の坪庭が配されている。庭を囲むようにして縁側が設けられており、1階とはまた違った庭の楽しみ方ができる。下左／当初は、玄関を進むと正面に階段のある茶屋らしい造りであったが、改修によって階段の位置を変えて箱階段を設置した。下右／1階の梁に残る焦げた跡。これは、室内を照らすために蝋燭を吊るしていた時に付いた焦げの名残だという。

茶屋建築をそのまま残す宿

町屋金沢 菊乃や

主計町の検番向かいにある一棟貸し切りの宿。明治31年に建てられた茶屋の風情はそのままに、2年の歳月をかけて改修を行った。個人旅行会社を営む、代表の正木晴正さんが「観光客に宿を通して地元の文化を知ってもらいたい」と、2007年11月にオープン。暮らすように旅ができる一軒として海外からの宿泊客も多い。茶道や生け花などの「入門体験プログラム」も行う。

金沢市主計町3-22 ✆076-287-0834 IN／15:00 OUT／11:00
価格／42,000円～（2名・朝食付き・税サ込）

『菊乃や』1泊貸切り 朝食付宿泊券プレゼント

一棟まるごと貸し切りの『菊乃や』宿泊券を一組様（2～5名）にプレゼント。風情ある主計町の中心にある同宿で、すばらしい滞在をお楽しみください。

プレゼント応募方法 Eメール、官製はがきにて、またはWEBサイトからご応募ください。

ご利用条件

有効期限は2019年3月末日まで（年末年始を除く）。要予約。

応募のきまり

≫Eメール、または官製はがきの場合
〈宿泊を希望する人数（2～5名）／氏名／住所／電話番号／Eメールアドレス／年齢／職業／性別／既婚・未婚／趣味・習い事／「月刊金澤」へのご意見・ご要望〉をご記入の上、下記宛先までお送りください。

≫WEBサイトからもご応募いただけます
https://www.k-club.co.jp/kanazawa/

応募の宛先

Eメール／kanazawa@k-club.co.jp 官製はがき／〒921-8562 ㈱金沢倶楽部「金澤を知る12章／町家宿泊プレゼント」係まで ※Eメールでのご応募の場合は、必ずメールの件名に「月刊金澤プレゼント」と明記してください。

応募締切

2018年9月19日（水） ※WEBサイトは18:00まで

※プレゼントの当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます（一部除く）。※ご記入いただいた個人情報は、アンケートの集計業務、また個人の特定を不可能とした状態のデータを抽出した統計・分析業務等に関わる利用目的のために必要な範囲でのみ利用いたします。お預かりした個人情報をご本人の承諾なく、第三者に開示あるいは利用することは一切ございません。また当社は第三者が個人情報を不当に入手することができないよう、厳重に安全管理に必要な措置を講じております。この旨、ご了承の上ご応募ください。